

1 学年部研究について

- ・6つの手立て(事前読み, スケール, あすなるノート, ツールキット, T2の活用ホワイトボードの活用)について手立ての必要性, 授業づくりについて研究

2 自評

- ・教材からサインの意味についてもっと深く考える時間があって良かった。教材から離れて対話の時間を長く確保した。
- ・T2の役目→話し合いが活性化した。実体験などを混ぜながら話をした予想では「伝わらなくても良い」の意見が多いと思ったが「思いやりは伝わっても伝わらなくても良い」との意見が多かった。

3 グループ協議

4 グループ代表発表 大鷹沢小 佐藤

【成果】

- ・心情スケールがとても効果的であった。
- ・事前読み, 討論する時間を確保するために有効だった。対話が活発であり, 問い返し等もあり, 良かった。
- ・「あすなるノート」自分の考えの変容を見ており, 評価するのに有効。

【課題】

- ・相手意識「伝える」と「伝わる」の表現があり, 子供たちは少し思いやりについて迷っていたようだ。
- ・心情スケール, 本時の終わりの際にもう一度使って変容を見てはどうか。
- ・問い返しで話の流れが変わってしまったのではないかな…。

5 指導助言 宮城県大河原教育事務所 副参事 指導班長(指導主事) 高橋勝 様

1 本校の取り組みについて本校の分科会スタイル

- ・5, 8月に訪問している, 限られた時間の中で立ったまま分科会を行う。8月は模擬授業を行った。
- ・成果を生かし課題を改善し授業づくりを行っていた。
- ・研究の特質「道徳」学級内での人間関係づくり, 話ができる雰囲気がよい。

2 本時の授業について

- ・授業の根本→考え, 議論する道徳で子供たちの姿が素晴らしかった。

- ・事前読み→限られた時間で話し合うので、時間の確保がされて有効であった。
- ・課題の捉え方→児童の考えから課題づくりをしている。
- ・発問の吟味→骨組みがしっかりしており、人間性が問われる発問で子供たちの葛藤が見られた。
- ・あすなろノート→書く活動を取り入れており、授業の中で発表に差があるので、ノートに書かせる活動は大切。
- ・終わりの段階で教師が押し付けないことが大切、本時ではさりげなくまとめていてよかった。
- ・子供の姿から自分を振り返ったりすることができた。普段の姿が見ることができ、教師と子供たちの人間関係のよさが授業を通して感じられた。

3 共有したいこと

- ・「いじめ」→道徳の時間を毎週1時間を確保してほしい。道徳性を養うことが道徳の授業のゴールである。
- ・ともに道徳の授業考えていきたい、人生いかに生きるべきか児童と教師と一緒に考えるべきである。